

<第9回 江戸川区景観まちづくり賞：総評>

今回で第9回目を迎える景観まちづくり賞ですが、まちなみ建築部門からは10点の応募があり3点が受賞、まちづくり活動部門からは12点の応募があり2点が受賞という結果となりました。

(1) まちなみ建築部門の応募内訳は、保育園・幼稚園が3点、大規模な集合住宅が4点、低層集合住宅と戸建て住宅群が3点、という構成でした。

優れた景観にとって重要なのは、見た目の美しさに加えて、街へ向けて何らかを語りかけようとする姿勢や表情です。また施設の規模が大きくなれば、広場や緑の整備による近隣への貢献も欠かせません。そのような観点から、今回は「ルンビニー学園整備計画」「First Step II」「リビオシティ・ルネ葛西」の3点を選出しました。

「ルンビニー学園整備計画」は、本堂・書院などの寺院施設と保育園・幼稚園などの児童施設の両者を一続きの参道と庭を囲む形で組み合わせしており、街との好ましい関係が成り立っています。なお、園庭と境内を分ける生垣には独特な優しさを感じられますが、参道沿いのやや頑強な印象の金属柵も、植物を組み合わせることでもっと和らげることが可能だと思います。

「First Step II」は、園庭を片流れ屋根の建物で囲むことで落ち着いた領域(まとまり)を作りながら、閉鎖的になり過ぎず、道路側からも園児たちの楽しげな動きを感じとることができます。また樹木周りのゆとりが、緑に囲まれた将来の好ましい姿を期待させてくれます。

「リビオシティ・ルネ葛西」は、建物を前面道路から大きくセットバックさせ、そのスペースを誰もが利用できる緑と石の庭として演出することによって、街への大きな貢献を果たしています。また多様なベンチや緊急時のカマド等の設置が広場の居心地と有効性を高めています。なお、水面を模した青色の明度・彩度を下げることで広場の風格は増し、索漠とした印象の駐車場の駐車スペースに樹木量を増やすことで全体としての完成度がより高まると思います。

低層集合住宅では「和」をテーマとした個性的な応募作もありましたが、広い前庭に近隣者がちょっと立ち寄り憩えるような工夫を加えることで街への貢献度が高まると思います。

(2) まちづくり活動部門の応募内訳は、例年通りバリエーション豊かで広範な内容だとは思いますが、審査時に重視した点として、活動年数や頻度、参加人数や過去の応募回数のほか、特に以下の3点をあげたいと思います。

- ・景観的な美しさだけでなく、人々の営みを表す活動や場所の記憶を呼び起こすような活動
- ・江戸川区らしさを伝えたり、探り出そうとする活動（伝統文化や産業の伝承と発掘）
- ・樹木や草花の育成・手入れを通して、より充実した景観形成へ向けての活動

これらの観点から、受賞した二つのグループの活動について、特に以下の内容を評価しました。

「葛西東なぎさ・鳥類園友の会」は、江戸川区の特徴である干潟周辺の環境を保全する積極的、有意義な活動であり、日々の活動に加えて、一般区民等へ向けたイベントや講座などによる情報発信を積極的に行っている点を評価しました。

「下小岩第二小学校 応援団」は、特色ある生垣によって学校らしい個性を生み出し、「バラの学校」として地域からも親しまれる景観を作りあげている点を評価しました。

今後ともぜひ、多様な活動についての多方面からの応募を期待したいと思います。